

平成28年 10月31日	<b>病害虫発生予報</b> <b>11月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
-----------------	-------------------------------	------------------------

**農薬を散布したあとは、防除器具の洗浄を忘れずに！**  
**～ホース等に残った農薬による残留基準超過に注意～**

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
<b>【その他の病害虫】</b>	
イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ・・・・・・・・	3
<b>【防除所レポート】</b>	
ナシ黒星病秋型病斑の発生状況と秋季防除・・・・・・・・・・・・・・・・	4
平成28年のブドウ主要病害の発生経過と今後の防除対策・・・・・・・・	5
<b>II. 今月の気象予報</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
6	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</a> フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報  
【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生葉率(本年値 12.5%、過去8年平均値 4.8%)、被害葉率(本年値 13.6%、平年値 7.3%)ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。  
③ ミヤコカブリダニやチリカブリダニなどの天敵を使用する場合、薬剤防除で生息密度を下げたから放飼する。  
④ ミツバチや天敵を導入する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生葉率(本年値 2.0%、平年値 0.1%)、発生地点率(本年値 50%、平年値 11%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 薬剤は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。  
③ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

(促成ピーマン 続き)

## 2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在，寄生花率（本年値 20.0%，平年値 14.7%），発生地点率（本年値 100%，平年値 64%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く，各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は，薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入している場合は，影響が少ない薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	10月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	タバココナジラミ	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	黄化えそ病	発生量：－	10月上旬現在，抑制キュウリにおいて発生を確認している。促成キュウリでは，ハウスの開口部に防虫ネットを設置する等，媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。
秋冬ハクサイ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	10月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：多い	10月下旬現在，平年より多い発生である。
	ハイマダラノメイガ	発生量：やや多い ～多い	10月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。
冬レタス	菌核病	発生量：少ない	10月下旬現在，平年より少ない発生である。
秋冬ネギ	べと病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：多い	10月下旬現在，平年より多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや少ない	10月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。

## ナシ黒星病秋型病斑の発生状況と秋季防除

黒星病はナシの重要病害であり、近年発生が多い傾向にあります。翌年の発生を抑えるためには、越冬する病原菌を対象とした秋季防除が効果的です。

### 1. 平成 28 年の発生状況

10 月中旬に行った秋型病斑（写真）調査の結果、全県における本年の発病度は平年より低く、発生地点率は平年よりやや低かった（表）。



写真 ナシ黒星病の秋型病斑（葉裏の薄い黒色の病斑）

表 ナシ黒星病秋型病斑の発病度および発生地点率

地域	発病度 <sup>1)</sup>		発生地点率 (%)	
	本年	平年 <sup>2)</sup>	本年	平年
全県	0.24	1.10	55	68
県北・県央	0.25	1.68	50	62
県南	0.11	0.91	17	69
県西	0.32	0.87	80	69

- 1) 発病度 =  $\Sigma (2A + B) / (2 \times \text{調査葉数}) \times 100$   
 A : 病斑が葉面積の 1/2 以上を占める葉数 B : 病斑が葉面積の 1/2 未満の葉数 調査葉数 : 300 枚  
 2) 平年 : 平成 18~27 年の平均値

### 2. 防除対策

#### ① 落葉前の薬剤防除

黒星病の秋型病斑上に形成された分生子は、10~11 月の降雨時に枝を流れ落ちて鱗片に感染し、翌年の伝染源となる。そのため、落葉前の 11 月上旬までに薬剤防除を行う。特に、徒長枝の先端に薬液が十分かかるよう、スピードスプレーヤの散布圧を調整する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

#### ② 落葉処理

秋型病斑を生じた落葉上には子のう胞子が形成され、翌年の 3~5 月にかけて好適な温度・湿度条件になると降雨の度に飛散する。そのため、落葉は集めて土中深く埋める等（この作業ができない場合、ロータリ耕ですき込むだけでも効果が期待できる）、落葉処理を徹底し、翌年の伝染源を減らす。

## 平成 28 年のブドウ主要病害の発生経過と今後の防除対策

本年のブドウ（露地および雨よけ栽培）における主な病害の発生状況をまとめました。病害の発生した圃場では、休眠期の防除対策を徹底してください。

### 1. 晩腐病

主に果実に発病する。被害果は表面に鮭肉色の孢子粘塊を生じ、果実に多数のしわが寄り乾燥固化する（写真左上）等、商品価値を失う。例年 8 月頃から発生が見られ、収穫期にかけて増加する。本年 8 月下旬には、露地の一部圃場で発生し、発病果房率は平年より高くなった（本年値 9.2%、平年値 1.2%）。

#### 【休眠期の防除対策】

果梗の切り残し、結果母枝、巻きひげ等は、病原菌の越冬場所となるので剪定時に取り除き、適切に処分する。また、発芽前の休眠期防除を徹底する。例年、晩腐病が多発する園では、雨よけ栽培の導入を検討する。

### 2. ベと病

主に葉、花穂（果穂）に白色の毛足の長いかびを生じる（写真右上）。葉に発病すると黄変し、発病が激しいと落葉する。また、果穂に発病すると果実の肥大が停止し、商品価値が低下する。例年 6 月頃から発生が見られ、その後 9 月にかけて増加する。本年は 7 月に発生を確認し、9 月下旬は平年より多い発生であった（図）。

#### 【休眠期の防除対策】

落葉は翌年の伝染源となるため、集めて土中深く埋める等、適切に処分する。

### 3. 褐斑病

葉に黒褐色の病斑を生じる（写真左下）。発病が激しいと早期に落葉する。例年 7 月頃から発生が見られ、9 月にかけて増加する。本年は 7 月下旬に発生を確認し、8 月は平年よりやや少なく推移したが、9 月下旬に急増し、平年よりやや多い発生となった（図）。

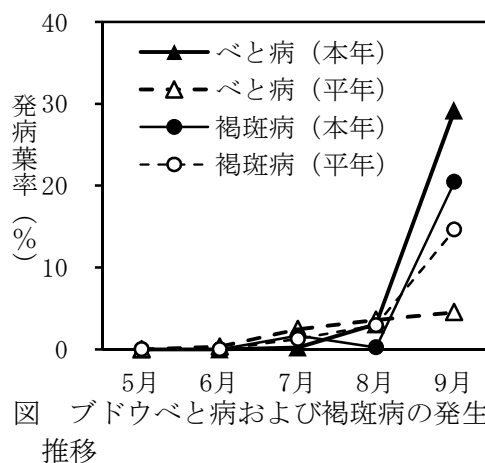
#### 【休眠期の防除対策】

病原菌は、落葉や幹の粗皮間隙、結果母枝等で越冬し、翌年の伝染源となる。そのため、落葉は集めて土中深く埋めるとともに、結果母枝等は剪定時に取り除き、適切に処分する。



写真 ブドウ主要病害による被害

左上：晩腐病  
右上：ベと病  
左下：褐斑病



## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 10月29日から11月28日)

気象庁 (10月27日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	40	40	20
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

#### [概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 10月29日(土曜日) から 11月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

< 2 週目の予報 > 11月5日(土曜日) から 11月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 11月12日(土曜日) から 11月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類\* (FRAC コード, IRAC コード) の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報 5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。